

# シリーズ かほく市の文化財 No.20

## 地域編 御蔵があった木津

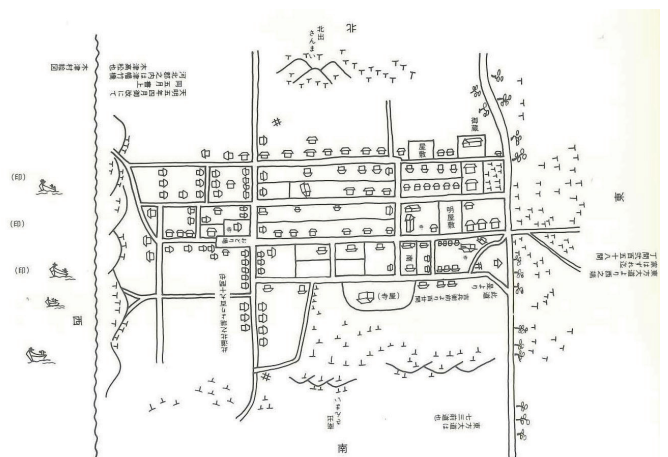
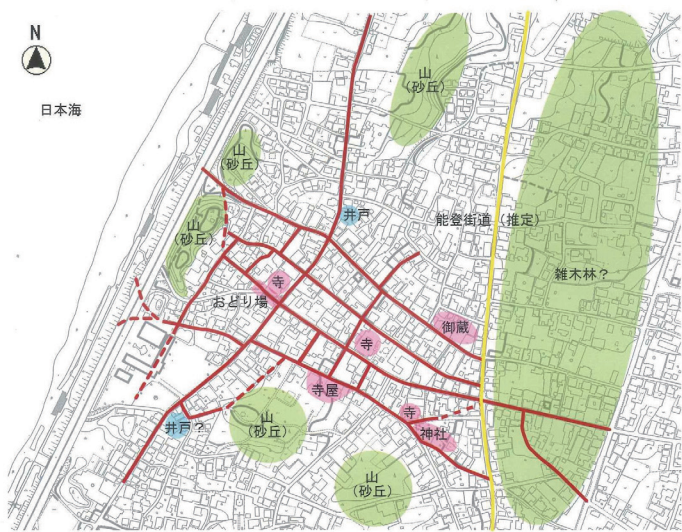
今回は、天明5年（1785）に描かれた木津村絵図から江戸時代の木津についてみていきます。

「加州郡方旧記」によると、宝暦4年（1754）に河北郡の十村役3名が藩の年貢米を収納する蔵『御蔵』を木津に建てることを申入れ、津幡御蔵に次いで建てられました。この蔵には宇野気や高松方面の村々が年貢を搬入し、年貢は木津浦から船で宮腰（金沢市金石）に運ばれていくようになります。また、「岩佐家文書」によると、安政5年（1858）には、「御蔵」とは別に「粉御蔵」が浜手に建てられました。米を収納する時期には、米を納め

た人達が帰りに「寺屋」の前で一休みし、菓子や酒の肴を売る屋台店ができるほど賑やかであったそうです。

この「御蔵」が建ったことで賑わった木津は、嘉永4年（1851）には187戸を数え、木津桃の栽培に力を入れた「室屋」や「寺屋」、「南屋」などといった商人も台頭し、「宿立村」となりました。

地図や航空写真と天明5年（1785）に描かれた木津村絵図に描かれた道を比較すると、その形はほぼ残っており、当時の面影を残しています。



天明5年木津村絵図

現在の木津と天明5年木津村絵図の比較